少子高齢・人口減少社会を支える子を育む総合的な学習の時間の課題Ⅱ

静岡大学教育学部　馬居政幸
秋田県秋田市立東小学校　渡辺和則
静岡県富士市立富士第一小学校　米津英郎
静岡県焼津市役所児童課　新村弘道

１　研究発表の目的

超少子高齢化の進行による人口減少社会に生きることを余儀なくされる現在の子どもたちに必要な資質を育む総合的な学習の時間の課題を明らかにする。

２　研究発表の内容

本研究では、H17,H18 度の本研究大会での発表をふまえて、まず、馬居と新村が現行の総合的な学習の時間の実践化に内在する問題点を整理し、超少子高齢化と人口減少が進行する社会の特徴と課題ならびにその課題を解決するうえで必要となる人的資質を明らかにする。

次いで、米津と渡辺が静岡と秋田での実践をふまえて、少子高齢・人口減少社会を支える子を育むうえで、総合的な学習の時間がになうべき課題と可能性について提起する。その一端として、ここでは静岡県富士宮市での米津の実践にもとづく提案を紹介しておく。発表時においては、米津の実践を渡辺の秋田県男鹿市（ふるさと学習）と秋田市（未来の私）での実践と対比することから問題点を明らかにしたい。

３　富士市立富士第一小学校における米津英郎の提案

（１）総合的な学習の問題点

総合的な学習総合的な学習の時間が創設されてから数年が経過した。創設のねらいは、よりよく問題を解決する資質や能力を育成することや自己の生き方を考えることができるようにすることであった。しかし、このねらいに迫るような学習が展開されているとは言い難い。なぜなら、年間計画は作成したものの学習内容を作成していなかったからである。つまり、どのようにして学ばせるのかという教育方法に関することだけを作成し、何を学ばせるのかといった教育内容を作成していなかったのである。

（２）内容表の作成

子どもたちが生活者となって社会を担っていく２０３０年の社会を想定して、内容を考えることとした。

２０３０年の日本の社会を考える上で最も重要なことは、少子高齢・人口減少社会となっている点である。少子高齢化は人口減少に直結し、人口減少はライフスタイルや社会構造の変動を起こす。そして、解決困難な課題を生じさせると予想される。経済の停滞や社会保障制度の崩壊、家庭・地域の変容等である。家族においては介護の担い手や子どもの減少による社会性の育成が課題となる。さらに、男女共同参画社会の理念のもとでは、男女が共に働き、同時並行で育児や介護を行わなければならなくなり、戦後の典型的な家族像（会社員の夫と専業主婦と二人の子ども）では、解決困難となる。

このような社会を生きていく子どもたちには、少子高齢、人口減少が進行する背景や社会保障制度の必要性を理解して、他者の行動や考え方を理解し貢献しようとする態度を育むことが必要となる。このことを目標として、内容表を作成した。

（３）授業実践

本実践は、筆者の前任校で行ったものである。単元名を「やさしいまちにはやさしい人がいる」と設定し、小学校第６学年９０名の児童を対象として、学年部（３学級）で取り組んだ。

２０３０年が少子高齢・人口減少社会であることを理解した子どもたちは、自分たちが生活している今のまちが高齢者にやさしいかどうかという問題意識を持って調査活動を行った。調査対象は駅や図書館などの公共施設や商店街などであった。次に、課題別に分かれて体験活動を行った。高齢者から知恵を教わったり、福祉施設で高齢者と触れ合ったり、少子高齢・人口減少社会に対する市役所の考えを調査したりした。そして、自分たちが高齢者のためにどんなことができるか考え、高齢者が利用するバス停のベンチをきれいに拭いたり、商店街を利用している高齢者に声をかけたりした。

４　結論

本研究で明らかになったことは、授業者が子どもの生きる社会を想定して学習内容を作成すれば、少子高齢・人口減少社会を支えようとする子どもを育むことができるということであった。課題としては、小学校で学んだ学習内容と中学校の学習内容をどのように関連させていくのかということが浮かび上がってきた。

少子高齢・人口減少社会を生きていく子どもを支えていく子どもを育むためには、小学校と中学校の両者で身に付ける学習内容と学習方法を明確にしていく必要がある。これは今後の課題としたい。